



No.49 2011.1.

ユニフェム YOKOHAMA NEWS よこはま

目 次

クリスマスコンサート	1
UN Womenの代表	1
APEC	2
WLN 関連シンポジウム	
記念シンポジウム	
海外便り	3
ネバール・マレーシア	
秋のイベント	4~5
会員のページ	6
ショップ便り	7
エフエム戸塚に出演して	7
国際女性デーのお知らせ	8
総会のお知らせ	8
国内委員会ニュース	8
事務局から	8



名器と技量で聴衆を魅了！

ロンドンアンサンブル クリスマスコンサート

2010年12月13日(月) 於かなっくホール

「ロンドンアンサンブル クリスマスコンサート」<ショパン・シューマン生誕200年記念>は、初めての室内楽で開催されました。このアンサンブルは、リチャード・スタッガ（フルート、尺八）さんご夫妻が率いるヴァイオリン、チェロ、フルート、ピアノ、4人のメンバーで、ロンドンを中心に、交響楽団や室内楽のメンバー、ソリスト、音楽大学教授など現在活躍中の精鋭メンバーで結成されています。演奏は、ショパンの「華麗なるボロネーズ」をチェロとピアノで華麗に歌い、「戦場のビアニスト」でお馴染みの「夜想曲 遺作」は甘い切ないメロディをヴァイオリンで、シューマンの「幻想小曲集」の他、モーツアルト「フルート協奏曲」、バガニーニ「ラ・カンパネルラ」、プロコフィエフのバレーグ組曲「ロメオとジュリエット」抜粋など多彩です。

ヴァイオリンは「ガルネリウス」、チェロは「ガダニーニ」の名器で、曲の美しさ、繊細さ、華麗さ、重厚さを余すところなく引き出す技量に、大きな拍手が湧きました。又、紋付・袴姿も涼々しいスタッガさんの尺八の音色にも、しばし酔いしました。最後に、アンサンブル演奏をバックに、「きよしこの夜」を齊唱して、早めのクリスマス気分も味わいました。来場者180人。休憩時間には、ショップとドトールコーヒーでホワイエが賑わいました。（事業部会 牧野迪代）



スタッガさんの尺八



ロンドンアンサンブルの皆さん

UNWomenの代表決まる



ミシェル・バチエレ氏

2010年9月14日、潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は前チリ大統領のミシェル・バチエレ氏をUN Womenの最高責任者に任命しました。彼女は考古学者を母、チリ空軍将校を父として1951年にサンティアゴに生まれ、自身も軍事科学の学士号を持つ医師です。学生時代から政治活動のリーダーを務めましたが、クーデターにより国外追放されました。帰国後は3人の子供を育てながら医師として働き、政治活動を続けました。そして保健大臣、国防大臣を経験した後、2006年にチリ共和国初めての女性大統領に選ばれました。2010年10月11日の国連総会でバチエレ氏は次のような3つのエンジを訴えました。①UN Womenの長を事務次長レベルに格上げしたことにより、ジェンダー平等に他の開発問題と同じ優先順位を与えること、②国連システムの中で一貫性をより向上させること、③これらの変革を可能にするためUN Womenの財政基盤を高めることです。自分のこれから仕事としては国連システムとの協力とともにUN Womenの創設を提唱した世界中の女性グループやネットワークとの連携をあげています。潘基文氏はバチエレ氏の「卓越した政治手腕とリーダーシップ」に期待すると述べています。いちばん新しいニュースは11月10日、41カ国からなるUN Womenの執行理事国に日本が選出されたことです。

(広報部会 本田敏江)

APEC記念シンポジウムから横浜発信のメッセージ ～女性が輝くから、持続可能な発展ができる～



APEC女性リーダーズネットワーク会合(WLN)関連シンポジウム 「キャリアを拓く 私らしく」



パネリストによる発表

平成22年9月22日(水)快晴。横浜シンポジアでは、女性による和太鼓の力強い音色が響き、APEC横浜開催にちなみ、企業家、行政職として活躍の方による男女共同参画社会の実現に向けてシンポジウムが行われた。パネリストは、林文子横浜市長、谷口郁子ノムノエイト(株)代表取締役社長、ウー・ワイ・ファンダ(吳惠芳)厦门天能電子(株)代表取締役社長、コーディネーターは平松昌子元BPW連合会会長。

林市長は経済界トップランナーの経験を生かして、市長として男女の特性・よさを合わせて市民のための努力を惜しまないと話した。“ヨジック中心の役所内に、女性の視点を入れて活性化する”との言葉が印象的。谷口社長は医薬や介護・福祉の分野で活躍。日本女性が世界一の長寿であることは強み、ジャパンブランドになり得ると会場を沸かせた。ウー社長はモンゴルや厦门、香港、日本等で、国際的な企業

として努力を重ねている。社名の由来も西郷隆盛の「敬天愛人」とのことの大切さを力説した。3氏の共通点は、女性の情緒や感性の優れた点を経済や行政に生かしたい、顧客満足度を高め、しなやかな決断を大切にしたい、チャレンジ精神で前向きに進みたいという意欲と熱意にあふれた姿勢である。

会場の外国籍男性から“日本はもっと女性の活用が必要”との指摘があった。これを生かすことが、今後の課題である。

最後に、「ヨコハマ・メッセージ 自分を信じてキャリアを拓く 未来を拓く 共感・信頼・おもてなしの心でつながる つながる女性のビジネスワーク」を拍手で採択。女性の価値観を広げることが平和につながるとの平松氏のまとめに、長く取り組んできた方の思いや願いを実感した。

ユニフェムよこはまの参加は20名と最多、シンポジウム後の交流会でさまざまな分野の方々と会話を弾み、今後の活動の示唆をいただくことのできた機会となつた。(広報部会 桑原正子)



ユニフェムよこはまの参加者



APEC開催記念シンポジウム 「女性の社会進出が支える持続可能な発展」

平成22年11月11日(木)晴天。APEC開催記念シンポジウムが上記テーマによって日産グローバル本社日産ホールで開催。参加者は約600名。会場内は女子学生が多く、世代を超えてテーマ実現やAPECの趣旨を高めようとの意気込みにあふれていた。

主催者挨拶は林文子横浜市長。冒頭のヒラリー・クリントン米国国務長官のビデオメッセージ「ジニンガー・クオリティの差がないところこそ国際競争力がある」との言葉をシンポジウムの基調として、川口順子モデレーター(参議院議員・元外務大臣・元環境大臣)引用の与謝野晶子の“山の動く日、今ぞ目覚めて動く”ともいうべき内容となつた。パネリストに内永ゆか子氏(株式会社ペネッセコーポレーション取締役副会長・WLN2010年実行委員長)、スザン・ルース氏(弁護士・駐日米国特命大使夫人)、ベルナディア・イラワティ・チャンドラデウイ氏(CITYNET事務局事業担当部長)、星野朝子氏(日産自動車株式会社執行役員)、林文子横浜市長。どの方々もご自身の社会貢献の経験を踏まえて、持続可能な社会の発展に向けて、ダイバーシティ促進の重要性、男女雇用機会均等拡大、ライフワークバランス・M字カープから見た勤務状況の改善、職場や労働時間等での男女差別解消の法律整備等々の課題について熱心に協議した。

横浜市は1987年にピースメッセンジャー都市として、広島・長崎と共に国際連合から称号を得ている。今回のシンポジウムで得た“どの国や地域でも国際協調の中での経済発展こそ、国連の精神を具現化するものであり、男女ともに特性を生かす理念・働き方・生き方こそがどの企業中枢にも必要であり、持続可能な発展につながる”とのメッセージを実現していくことが、私たちに課せられていると実感した。(広報部会 桑原正子)

日本に四季があるように、ネパールには六季あります。1月は、ネパールも日本と同じ冬。カトマンズでは時れていると20度近くまで上がるのですが、朝晩は0度近くまで下がる、一年で一番寒い季節です。しかし、一般家庭では、暖房器具などない家もまだたくさんあります。灯油ストーブは普及していますが、灯油の価格がネパールの物価からすると高いため（現在1リットル約85円）、めったに使用しない家庭も多いようです。

では、一般庶民はどのように寒さをしのいでいるのかというと、日中は『日向ぼっこ』、これに限ります。カトマンズの家の多くはコンクリートやレンガで出来ており、冬は深々と底冷えします。しかし、外は強い日差しが降り注ぐため、寒い日は屋外で過ごしたほうが断然暖かいのです。早朝や日没後は『焚き火』。朝がとても早いこちらの人たち。日の出前、深い朝霧が立ち込める中、登校前や出勤前の人たちが白い息を吐きながら焚き火を囲み、熱いチャ（ミルクティ）をする姿は、真冬の風物詩といつてもよいかもしれません。夜には

子供たちも加わり、夕食後、室内での家族団らんの代わりに、焚き火に当たって近所の人たちと過ごす、というような光景も見られます。

ところで、こちらの人たち、寒い時には老若男女、毛糸の帽子やショールを頭からすっぽりかぶって頭を温めることが多いのですが、足元に目をやると裸足に草履ということも多いのです。日本の「頭寒足熱」とは逆。ところ変われば、という感じですね。



寺院前で花を供える女性

私は1997年、科学技術振興事業団のマレーシア事務所に初代所長として赴任した。当地の気候風土が気に入った私は、退職後も留学生団体でボランティア活動をするなど毎年3,4回マレーシアを訪れる。現在に至っている。事務所の開所式の挨拶で、駐マレーシア日本大使が「ミス・イマイは女性なので、きっと日本よりマレーシアの方が仕

事がしやすいだろう」と発言されたが、それはすぐに実感することになった。

私のカウンターパートは政府、大学、研究所、図書館関係などの人々であったが、どの組織でも女性の活躍が目立った。聞けば、同じ能力なら民間企業はどうしても男性を探るので勢い優秀な女性は公的機関に集まるのだという。昇進については、出来上がった人事案を見て、昇進者の中に女性が入っていないと、「また騒がれる（女性に）」と、慌てて入れ替えるのだそうだ。ちなみにフィリピンでも科学技術省の4人の副大臣のうち3人が女性であった。日本ではともすれば女性が無意識のうちに昇進の対象から外されている時代だった。

マレーシアは多民族国家で、65%のマレー系、25%の中国系、10%のインド系その他構成されているが、いずれの民族も家族を大切にする。イスラム教徒であるマレー系は、毎年1回1ヵ月続くラマダン（断食月）には、日の出から日没までの間、飲食を禁じられる。ラマダンの間、マレー系の人々は日没後の食事を家族と楽しもうと、一齊に家路につく。通勤には通常車が使われるが、終業後の道路は通勤ラッシュとなり、日没後の道路はガラガラになる。このような1ヵ月をすごすので、基本的には普段も家族との時間を大切にする。一方で中国系も家族主義である。マレーシアでは屋台で簡単に外食する人が多いが、夕食時には家族連れで賑わう。少し高級なレストランでは、年寄りから赤ん坊まで10数名が円卓を囲むが、それは誰かの誕生日だったり、年寄りのための集まりだったりで、会社の同僚同志というものは少数派である。最近中国系の友人から聞いた話によると、会社の社員旅行も家族同伴が普通だという。妻も働いている場合が多いが、妻の勤務先の旅行には夫が子供を連れて参加する。

日本人はマレーシアについて殆ど知らないが、マレーシア人は日本のことを探して知っている。男社会で女性の活躍がむずかしく、家族を置き去りにして夫だけが外で楽しんでいるのを見て、「日本の女性は我慢強いね」と彼らは言っている。



国立図書館の人たちと、今井さんは右端

2010 秋のイベント



あーすフェスタかながわ 2010

とにかく、「暑い」「暑い」の2日間でした。9月11日(土)、12日(日)と、あーすぶらざにて催され5人のスタッフで参加しました。お天気には恵まれたものの、太陽熱・強風と戦いながらの売り上げは2日間で20,200円。人出は例年より少ないように感じましたが、賑わっているのはいつもながら食べ物の通りでした。
(総務部会 山本紀子)



磯子国際交流フェスティバル

残暑厳しい9月11日(土)に区役所で開催され、今回は参加団体が増えたこともあり大勢の人が訪れました。野外ステージでは音楽やダンスが続き、ロビーでは子どもの英会話教室や磯工高のロボットが注目を集めました。ユニフェムよこはまは、外のテントで暑さにめげず、秋物のエードバッグやタイルなど売れ行きは好調。丸1日外にいたため後で体が熱かったのは、熱中症の手前だったのかもしれません？(広報部会 衛藤榮津子)



日本APEC横浜開催関連記念イベント 「よこはま国際フェスタ 2010」

10月16日(土)、17日(日)、横浜では最大級の国際協力イベント「横浜国際フェスタ 2010」が、象の鼻パークと波止場会館で開催されました。市内に拠点を置く国際協力・国際交流団体、行政、学校、企業など120団体が参加し、海風も爽やかな会場は、54,000人を超す人出で賑わいました。



船笛を合図に開会された会場では、国際協力団体のパネル展示や、アジアやアフリカ、南米などの民芸品や雑貨が並び、トルコのケバブやクスクスなどのエスニック料理の匂いが立ちこめ、舞台では民族舞踊やフォークライブが絶え間なく披露されました。



ユニフェムよこはまのブースでは、グッズ販売とユニフェムのPRを行う一方、クイズラリーの出題ポイントのスポットとして、親子連れや子どもたちの賑やかな会話が弾んでいました。
(事業部会 牧野迪代)



フォーラム南太田まつり 2010

10月17日(日)、男女共同参画センター横浜南にて開催。市民グループによる多彩な活動発表と交流が行われ、例年参加のユニフェムよこはまも3階フロアに季節のショールを中心に出店、すっかり馴染みとなった方々と買い物手売り手上手で、売り上げも上々。今やユニフェムも地域に定着してきたことを感じる一日となりました。

(事業部会 後藤久美子)



アートフォーラム 2010 「アート縁日」

10月31日(日)、アートフォーラムあざみ野で開催の5周年秋の記念イベント「アート縁日」に午前10時～午後4時まで今年も参加。前日から心配していた天候も何とか晴れ、大勢の参加者で賑わいました。

例年、立ち寄って下さるおなじみも多く、ストール、バック、アクセサリー、モンゴルの塩や参加会員の持ち寄った献品など売り上げも上々で、楽しい一日でした。

(広報部会 佐伯律子)



フォーラムまつり 2010

「販売時間までお待ちください！」10月24日(日)、フォーラム横浜でのひとこま。今年のお客さんはセッカチなのか、ユニよこのバザー品は安くて良いものが多いと評判なのか、テント前は開店前から大賑わい。

会員や知人からの寄付品（衣料・雑貨など）は段ボール5個にも及び、スタッフは大忙し。また、ケニアティー喫茶も良い手作りのお仲間を得て、マドレーヌ5個入り60袋と大納言蒸しケーキ20本は瞬く間に完売。ケニアティーに身体も温まり、多くの協力者を得て、忙しくも楽しい一日でした。

(総務部会 竹内美千代)



青葉区民交流センターまつり

11月23日(祝/火)、前日からの雨で実旗が危ぶまれましたが、当日朝、ようやく上がりつゝと一安心。水溜りの水を新聞紙で吸い取り、敷物を敷いての青空フリーマーケットでした。

屋外ステージも盛り上がり、民族衣装を身につけた外国人の方々の姿が目を引きました。地域の方々の協力も多く、国際色豊かな交流が行われ、テーマである「田奈から広がる地域の和・世界のわ」を感じさせるおまつりでした。

(広報部会 樽谷文代)





ユニフェムよこはまとの出会い

総務部会 木次 順子



2010年4月からお仲間に入れていただきました木次です。私がユニよこを初めて知ったのは全くの偶然でした。それも偶然に一人で参加したサンマリノ共和国への旅で……

それまでも戸塚に近い泉区で23年も住んでおりましたのに、ボランティアには程遠いただの主婦でした。3月、何かに魅かれてサンマリノへの旅行に参加して、二十数名の同行の方々と9日間共に過ごす内に、ユニよこの村松さん、芳賀さんがお親しくして下さり、初めてユニよこの存在を知ることとなりました。

帰国後、お二人がショップに来いらした日に伺い、いろいろとユニよこのお話を聞きまして、その場で入会を希望し、入れていただきました。まだまだ知らない事、わからない事ばかりですが、総務部会に入り、ショップで販売をしたり、来年の国際女性デー実行委員会にも入れていただいて皆様に初步から教えていただいておりますが、まだ皆様の足を引っ張ることばかりで残念です。偶然から生まれたこのご縁を大切にして、少しでもそして一歩でも、ユニよこの理念である途上国女性達の自立に役立てるようになりたいと思います。どうぞ宜しくご指導ご鞭撻下さい。

横浜元町の生活史を取材

島岡 圭子

転勤族の父について、いくつかの土地で暮らしました。子どものころを過ごしたのは、石川県金沢市です。当時の金沢は雪が多く、雪降りの夕暮れ時、いつまでも外で遊んでいると、通りすがりの人から、「早く帰るまっし」と声をかけられたものです。

思春期を過ごした愛知県豊橋市は、一軒、冬も明るい陽射しにあふれています。通学路には夏みかんが色づき、「そうだのん」（そうですね）という、どこかゆるつとしたお国語が今も大好きです。結婚して自宅を持ったのが横浜でした。地方都市で育った私にとってはあこがれの地。とりわけ元町は、いつ訪れても新しさと懐かしさの両面を感じさせてくれる街でした。

子育てが一段落した頃、編集や執筆の仕事をはじめ、昨年、元町の歴史と実在する洋装店の足跡をたどった『横浜元町オザワ洋装店物語』(思想の科学社)を刊行しました。取材を重ねるほどに感じたのは、開港以来、異文化を柔軟に受け入れ、モノづくりに励みながら、もてなしの心でお客様を迎えてきた浜っ子の気風のよさです。この本を通じて知り合った素敵な浜っ子からのご紹介で、このほど会員の末席に加えていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします



出来ることから

総務部会 宮本 紗子



これまで私が見た各先進国の町並み、衛生面、人々の心が洗練されているように見えるのは何故なのか。戦争・植民地支配・グローバル経済により低賃金労働のシステムを構築する側とされる側の違いを考えた時、釈然としないものが心に残ります。その解消には情報格差を埋める事。各民族の文化を尊重した恒常的な経済活動、自尊心の醸成の為、子供が学校へ安心して通える活動を希望していました。子供が安心して学ぶには、母親の心の安定が最大の鍵、妊娠時からの父親の精神的なサポートが後々多大に影響します。暴力的でない父親の育成には、当人が胎児・幼少時の家族の周囲のあたたかい言葉がけが非常に重要です。母親の心の安定は、将来の優しい父親までも作り出します。私が思い描く個々人が輝く未来は、裁き、戦って勝ち取るものではなく、自己の本質を見つめる経験により得られる民族、文化、性差を越えた多様性の尊重です。今回事務局として女性の自立を支援する活動に非力ながら参加でき、本当に有難く思います。諸先輩方が積み上げてこられた一つ一つの行動に敬服するばかりで遠く及びませんが、自分なりに出来ることをやって行きたいと思います。



ショッピング便り ~パキスタンから~

数日前にパキスタンから届いた大きなダンボールは、痛々しいほどに、真黄色のガムテープが幾重にも巻かれていました。そして内容物を表示する申請書の紙がやたら分厚いことに気付き、剥がしてみました。申請書の裏には、送り主の高垣絵里さんのパスポート一冊分が全てコピーされ貼付されています。こんな荷物生まれて初めて受け取りました。その後いただいたEメールには、以下のような記述がありました。

「本来なら、数日以内に届くはずの郵便物も、郵便、宅急便を利用した爆弾テロ事件が多発していることに加え、麻薬密輸取り締まりが一層厳しくなったらしい、すべての郵便物は厳しくチェックされ、その手続きが終わり次第、10日から2週間後によく郵送されると説明を受けました。郵便局での単純な郵送手続きにもかかわらず、いちいちパスポートのコピーの提示を要求されたり、改めてパキスタンの現状の深刻さを口の当たりにしました」ショッピングに並んでいる商品は、このような経路をたどり日本に到着したものです。

※ 協力者の高垣絵里さんは、幼少時代をニューヨークで過ごされ、現在はサンフランシスコを拠点にバングラデシュと、パキスタンに会社を立ち上げ、世界を飛び回っていらっしゃいます。次号できらに詳しくご紹介します。どうぞお楽しみに！



パキスタンの貴石ネックレスと真鍮に彫りをほどこした花瓶、木製ジュエリーボックス

(広報部会 西村洋子)



On Air

エフエム戸塚「ハートフルレシピ」に出演して

On Air

4月13日を皮切りに、3週おき9回にわたり、地域のFM放送（エフエム戸塚）にユニフェムよこはまの会員が交代で出演しました。生放送の持ち時間は大体10分程度ときまつっていました。そこで出演者は、レジメをまとめた上で、パーソナリティーの相浦やよいさんと打ち合わせをして、本番に臨みました。しかしどんなに打ち合わせをしようと、生放送では思ったように時間内に伝えられず、あわてた人、相浦さんの急いでとの合図も気付かずマイペースの人など、それぞれの特徴がよく出ていたと思います。内容は、国連ユニフェムとユニフェムよこはま、スタディツアーネパール、ラオス、NY）、セミナー、チャリティコンサート、ユニフェムシン



本番中の会員・竹内美千代さん

こはまの会員が交代で出演しました。生放送の持ち時間は大体10分程度ときまつっていました。そこで出演者は、レジメをまとめた上で、パーソナリティーの相浦やよいさんと打ち合わせをして、本番に臨みました。しかしどんなに打ち合わせをしようと、生放送では思ったように時間内に伝えられず、あわてた人、相浦さんの急いでとの合図も気付かずマイペースの人など、それぞれの特徴がよく出ていたと思います。内容は、国連ユニフェムとユニフェムよこはま、スタディツアーネパール、ラオス、NY）、セミナー、チャリティコンサート、ユニフェムシン

ショップ、など担当はあらかじめ決めてありました。相浦さんの巧みなリードがあって、全て無事終了。大変良い体験ができましたし、私たちの活動を伝える機会をいただけたことは嬉しい限りです。さて相浦さんからも次のようなコメントをいただきました。

「パーソナリティー相浦やよいです。世界の広い視点からのお話しをありがとうございました。国連を具体的にイメージでき、途上国の女性の力強さを感じ、ここ戸塚から発信できることの喜びをかみしめた9回でした。そして皆さんのが美しさ、お若さは私の手本となりました。西村会長はじめ皆さん、私の視野が曇っていないか、そしてジェンダーの視点を意識できているか・・時々スタジオに遊びに来て下さい。小さな事から大きな選択まで自分で選んで生きることの喜びを日常の生活レベルで感じながら、自分の人生を生き生きりたいと思っています。そして自分の人生を自分を主人公に生きることの難しい途上国の女性に想いを馳せます」

(広報部会 西村洋子)



パーソナリティーの相浦さん

国際女性デー2011イベント ~つながる輪・ひろがる和~

自分らしく輝こう：子育て世代への応援歌

日時 2011年3月6日（日）13:00～16:00

会場 アートフォーラムあざみ野 レクチャールーム

オープニング フルート演奏（アマリリス）

第一部 基調講演

「イクメン（育児する男）が社会を変える」

東 浩司 NPO法人ファザーリング・ジャパン理事

第二部 シンポジウム

第三部 交流会、グッズ販売

定員：120名

参加費：無料

申し込み：電話/FAX/Eメールにてユニフェムよこはま事務局へ

保育あり：問い合わせ申し込みはアートフォーラムあざみ野まで Tel(045)910-5724



ユニフェム日本国内委員会ニュース

UN Womenの執行理事会理事国選挙が2010年11月10日に国連の経済社会理事会であり、日本政府は任期3年の執行理事国に当選しました。執行理事会は、政府間支援の提供や機関のUN Womenの業務管理を行います。

アフリカ10、アジア10、東欧4、南米6、西欧他5、ドナー諸国6の計41カ国で構成。

ユニフェムはこのような、いわばお目付け役の執行理事会を持たずに運営されていました。日本政府は、国連における女性分野の活動が、より効率的・効果的に実施されるよう、UN Womenに積極的に貢献していくとしています。

ユニフェムよこはま 2011年度総会

日時 2011年2月6日（日）11:00～12:00

会場 男女共同参画センター横浜

議題 2010年度事業報告・決算

2011年度事業計画・予算

*終了後、昼食会、バザーを予定



ありがとうございました。

◆ ご寄付

ファイバーリサイクルネットワーク

芳賀美沙子 高垣絵里

◆ 獻品

鈴木秀子 島田みさを 吉田光子

室岡君世 原田清美 奥田美智代

池田志津子 野田純子 (敬称略)

ユニフェムよこはま 第49号

発行日 2011年1月1日

発行 ユニフェムよこはま

事務局 〒244-0816

横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内

TEL・FAX 045-869-6787

Eメール unifemyokohama@blue.ocn.ne.jp

Webpage <http://www.unifemyokohama.org/>

ユニフェムよこはま広報部会